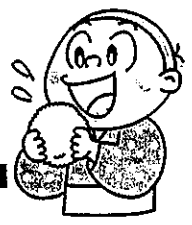


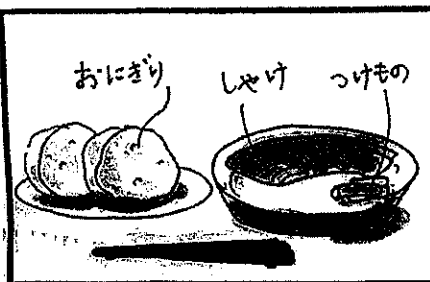


1月24日から1月30日は、**全国学校給食週間**です。



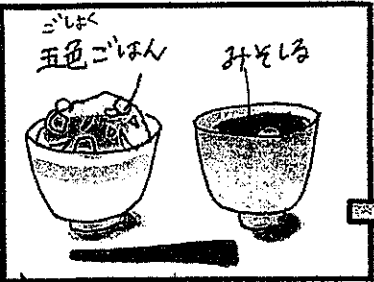
学校給食の歴史を振り返ってみましょう!

明治22年、山形県の小学校で始まったとされる学校給食。戦争によって中止されながらも、さまざまな歴史をたどり、現在まで続いています。「全国学校給食週間」は、戦後、アメリカの支援団体からの援助により、学校給食が再開されたことを記念して定められたもので、学校給食の意義や役割について理解を深め、関心を高めることを目的としています。当時の代表的な献立を一例に、学校給食の歴史をご紹介します。



明治22年

お弁当を持ってこれない子どものために山形県の小学校で給食が開始されました。



大正12年

真だくさんの炊き込みご飯に、汁物がついた給食に発展しました。



昭和17年

戦争が始まり、昭和16年ころから、食べるものが不足するようになりました。



昭和2年

おかずが一品ついた給食。このころの器は、家庭で使われていた陶磁器が使われています。



昭和20年

昭和20年に戦争が終わりましたが、食料不足は続いていました。



昭和21年

12月24日、東京、神奈川、千葉で学校給食が開始。この日を記念して1ヵ月後の1月24日から30日を学校給食週間とされました。

昭和25年 アメリカの小麦粉を使い完全給食が8大都市で行われるように。

昭和26年 国庫補助による、学校給食の継続を要望する運動が広がる。

昭和27年 小麦粉の補助が開始、4月からすべての小学校で給食が開始。

